

# 令和5年度 事業報告書



社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会

# はじめに

---

社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会が、令和5年度事業報告を策定するにあたり、誰もが手に取って見ていただけるようなわかりやすさ、シンプルさを心がけ作成しました。

---

## 事業報告の特色

- 1 「令和5年度 鎌倉市社会福祉協議会 会計区分一覧」にある会計区分と、事業計画に記載された取組み事業を連携させました。このことにより、資金収支決算書と事業報告書を一体のものとして相互の関連性を持たせ捉えることが可能となります。
- 2 令和5年度事業計画で掲げた「数値目標」に対して、1年の活動を振り返り、その取組み経過も大切にし、どのような成果を生み出したのか、またどのような課題が残ったのかを事業ごとに総括し、評価に反映させました。
- 3 前項の評価を行うため、「事業区分別の主な取組み」において、実績とともに事業を進める中で得られた成果などを記載しました。また、令和6年度以降の取組みに反映させるための課題を提示しました。このことにより、それぞれの事業における目標や達成度を認識し、目標に向かって取り組む職員のモチベーション向上にもつながっていくものと考えています。

# 目 次

1	令和5年度事業の取組み報告	3	
2	「Ⅰ 重点とする主な事項」	4	
3	「Ⅱ 事業区分別の主な取組み」	7	
	大事業 1 法人運営事業      中事業 1 法人運営事業	7	
4	大事業 1 法人運営事業      中事業 2 基金運営事業	10	
5	大事業 2 企画広報事業      中事業 1 広報啓発事業	11	
6	大事業 2 企画広報事業      中事業 2 福祉功労者表彰事業	12	
7	大事業 2 企画広報事業      中事業 3 福祉まつり事業	13	
8	大事業 3 ボランティアセンター活動事業      中事業 1 ボランティアセンター運営事業	13	
9	大事業 3 ボランティアセンター活動事業      中事業 2 福祉教育・研修事業	17	
10	大事業 3 ボランティアセンター活動事業      中事業 3 災害ボランティアセンター準備事業	18	
11	大事業 4 地域福祉推進事業      中事業 1 地域福祉推進事業	19	
12	大事業 4 地域福祉推進事業      中事業 2 地域福祉活動計画事業	21	
13	大事業 4 地域福祉推進事業      中事業 3 部会・委員会活動事業	21	
14	大事業 4 地域福祉推進事業      中事業 5 居住支援協議会に関する事業	22	
15	大事業 5 重層的支援体制整備事業      中事業 1 重層的支援体制整備事業	23	
16	大事業 6 生活支援体制整備事業      中事業 1 生活支援体制整備事業	25	
17	大事業 7 日常生活自立支援事業      中事業 1 日常生活自立支援事業	27	
18	大事業 8 成年後見センター事業      中事業 1 成年後見センター事業	29	
19	大事業 9 法人後見事業      中事業 1 法人後見事業	31	
20	大事業 10 生活困窮者自立支援事業      中事業 1 就労準備支援事業	32	
21	大事業 11 援護事業      中事業 1 緊急援護事業資金貸付事業	33	
22	大事業 11 援護事業      中事業 2 生活福祉資金貸付事業	33	
23	大事業 11 援護事業      中事業 3 年末たすけあい援護事業	34	
24	大事業 11 援護事業      中事業 4 災害見舞金等給付	35	
25	大事業 12 助成事業      中事業 1 有償福祉活動グループ助成事業	36	
26	大事業 12 助成事業      中事業 2 福祉団体等助成事業	36	
27	大事業 12 助成事業      中事業 3 地区社協助成事業	36	
28	大事業 13 地域包括支援センター事業      中事業 1 地域包括支援センター事業	37	
29	大事業 14 老人福祉センター運営事業      中事業 1 名越やすらぎセンター運営事業	38	
		2 腰越なごやかセンター運営事業	
		3 教養センター運営事業	
		4 今泉さわやかセンター運営事業	
		5 玉縄すこやかセンター運営事業	

# 令和5年度事業の取組み報告

## 【評価について】

評価基準を5段階に設定し、事業ごとに評価を加えました。

評価については、令和4年度事業報告では、数値（到達）目標がない中での自己評価でしたが、令和5年度は、事業計画で数値（到達）目標を設定し、目標に対する達成状況を評価することで、評価に対する客観性を高めました。

評価内容について、重点事項については、10事業あり、「3 想定どおり取組めた」「4 想定より取組めた」で10事業となり、令和4年度事業報告にあった「1 取組めなかった」「2 想定より取組めなかった」が0事業となりました。

事業区分別の主な取組みについては、95事業あり、「3 想定どおり取組めた」「4 想定より取組めた」「5 想定よりかなり取組めた」が、74事業で全体の77.9%でした。令和4年度との比較では、「3 想定どおり取組めた」が57事業から64事業に増加した半面、「2 想定より取組めなかった」が8事業から17事業に増加、「4 想定より取組めた」が21事業から7事業に減少しています。

特に、「2 想定より取組めなかった」事業が前年度と比較して倍増しており、個々の事業に記した「今後の課題」を令和6年度事業計画に反映し取組むこととします。今後の評価の推移を注意深く追っていく必要があると認識しています。

評価基準	重点事項(10)	事業別(95)
5 想定よりかなり取組めた	0	3
4 想定より取組めた	4	7
3 想定どおり取組めた	6	64
2 想定より取組めなかった	0	17
1 取組めなかった	0	4



# I 重点とする主な事項

## 自己評価 3 想定どおり取組めた

項目	1 事業周知と組織基盤の強化
主な取組み	(新規)ホームページ、Facebook の積極的な運用
取組みの概要	ホームページ、Facebook の活用については、適宜情報の更新を行ってきました。また、令和5年度は、8月下旬にInstagramを新たに運用開始し、若年層を狙った新たな閲覧者の拡大に努めました。
取組みの成果	8月下旬にInstagramを開設し、鎌倉福祉まつり、赤い羽根共同募金運動、老人センターフェスティバルの様子など、タイムリーな情報提供を行うことができました。フォロワー数はまだまだですが、Facebook のフォロワーとは別の新たなフォロワーを獲得できました。 また、本会ホームページにもInstagramを盛り込み、新たなフォロワー獲得に向けた取組みを始めました。
今後の課題	プランⅣ「相談支援と情報提供の基盤づくり」を図るため、ホームページ、Facebook、Instagramの積極的な活用が必須となります。Facebook については、運用上の問題から新規アカウントによる立ち上げが必要です。Instagramについては、運用を開始しましたが、運用マニュアルによる研修、運用体制の確立が必要で、今後取組みを推進することが求められている。
担当係名	総務企画係

## 自己評価 3 想定どおり取組めた

項目	2 地域福祉活動計画の策定
主な取組み	現行プランの推進と次期プランの策定。課題解決だけでなく、市民向けに福祉への理解と参加を呼びかける
取組みの概要	かまくらささえあい福祉プラン推進等委員会を開催し、現計画の取組みの検証と次期計画策定に向けた素案作成を行いました。
取組みの成果	推進等委員会を5回開催し、地域別懇談会や意見募集の内容を反映しながら計画素案を作成し、理事会・評議員会の承認を得て「かまくらささえあい福祉プラン(第6次地域福祉活動計画)」が完成しました。
今後の課題	取組み内容の具体化に向けた検討と実施にかかる組織内の意識統一が課題と捉えています。
担当係名	地域福祉係

## 自己評価 3 想定どおり取組めた

項目	3 災害ボラセンの設置運営に向けた取組み
主な取組み	設置運営マニュアルの具体化のための協議の場づくり、設置運営訓練の実施
取組みの概要	8月までにマニュアルの完成を目指し、鎌倉市(福祉総務課・総合防災課)、鎌倉青年会議所、本会の三者で3回にわたり協議した結果、一定の合意形成が図られ9月に完成しました。 設置運営訓練の実施については、鎌倉武道館にて2/26(月)に実施しました。
取組みの成果	本マニュアルが完成したことにより、これに基づく設置運営訓練や、三者以外の有識者も交えた内容のブラッシュアップに取り組むことができると考えています。
今後の課題	令和6年度立上げ予定の「災害ボランティアセンター企画会議」(仮称)の概要について、まだ確定していない部分が多いと捉えています。
担当係名	地域福祉係

**自己評価 3 想定どおり取組めた**

項目	4 福祉教育推進事業の充実
主な取組み	学校外にも地域住民向けプログラムの実施、夏休み期間中の子供向けイベント型プログラムの実施
取組みの概要	7/25（火）、28（金）に市内の小学校4～6年生を対象に、「夏休みこども福祉体験」を開催しました。25（火）は「はじめての手話」、「車いす体験隊」、「盲導犬のことを知ろう」、28（金）は「要約筆記体験」、「はじめての点字」、「サウンドテーブルテニス」を体験し、体験後は鎌倉女学院高等学校福祉委員10数名にボランティアとしてミニ縁日を企画してもらい、参加児童に楽しんでもらいました。参加児童の延べ人数は84名でした。
取組みの成果	保護者の見学者数が多く、親子で学ぶ姿も見受けられ、保護者の福祉への関心も引き出すことができました。
今後の課題	全ての対象児童へ周知することができませんでした。また、これをきっかけとした小・中学校、地域への福祉教育の更なる推進につなげることができませんでした。
担当係名	地域福祉係

**自己評価 3 想定どおり取組めた**

項目	5 重層的支援体制の整備
主な取組み	新規)Libero かまくらは多機関が協働する上で、中核的な役割を担い地域連携ネットワークの充実
取組みの概要	分野別の支援会議等に参加し(57回)多機関協働事業者として、全体を俯瞰した立場で課題の解きほぐし、調整(コーディネート)に努めました。
取組みの成果	支援者の支援を行うにあたり、支援者が抱える課題を整理するとともに、他分野の支援者が連携できるよう働きかけを行いました。
今後の課題	複数の支援機関が関わっているため、的確な情報を収集し、支援の方向性(見立て)を示していくことが難しいと感じています。しっかりとしたアセスメントを行い、課題の軸を見定め、連携ネットワークにおける支援者の核を定めていくことが今後の課題となります。
担当係名	地域福祉係(Libero かまくら)

**自己評価 3 想定どおり取組めた**

項目	5 重層的支援体制の整備
主な取組み	(新規)相談支援機関等向け研修会の充実
取組みの概要	大研修として「精神障害を抱える方たちの支援(11/7)」「重層的支援体制整備事業における地域づくり(11/21)」を開催し、延べ84名の参加がありました。 ミニ研修(支援者カフェ)として「障害・高齢・生活困窮」について相談支援事業所の紹介や説明及び相談事例を交えてディスカッションを行うことで、相互に役割を理解し、分野を越えたよりよい連携体制を作ることを目的に障害分野(3/5 参加者17名 講師:基幹相談支援センター)、高齢分野(3/12 参加者13名 講師:地域包括支援センター聖テレジア)、生活困窮分野(3/19 参加者15名 インクルジョンネットかながわ(インクル相談室鎌倉))を開催しました。
取組みの成果	大研修では満足度95%、85%と高い評価をいただきました。参加者の声としては「他機関(他分野)の方々と知り合えた」「地域づくりの本質が再確認出来た」など他分野の行っていること(考えていること)、地域で支えていく力などについて学びを深める機会になりました。 ミニ研修では、各分野の支援機関の役割や支援の仕方、分野で分けるのではなく、支援機関がつながることにより、世帯として伴走した支援が行えることについて学びを深める機会になりました。
今後の課題	相談支援機関がどのような学びを求めているか、研修時のアンケートだけでなく個別ヒアリングの際、聞き取る必要があり、背景にあるニーズを分析し、研修に活かしていくことが課題と捉えています。
担当係名	地域福祉係(Libero かまくら)

**自己評価 4 想定より取組めた**

項目	6 老人福祉センター
主な取組み	指定管理期間の折り返しの年度となり、5年間の業務仕様書及び事業計画書に沿った業務を確実に実行
取組みの概要	各施設で、令和3年度から令和7年度までの老人福祉センター業務仕様書、指定管理事業計画書、及び令和5年度(2023年度)の自主事業計画書に沿って各種事業に取り組みました。
取組みの成果	各施設とも、仕様書及び計画書に沿って事業に取り組んだことによって、施設利用者が安心して利用できる施設運営を行うことができました。
今後の課題	腰越なごやかセンターを除き、建屋及び設備の老朽化が進み、大規模修繕が必要な箇所が増加しています。施設設置者である鎌倉市による大規模修繕の実施が望まれます。
担当係名	老人福祉センター

**自己評価 4 想定より取組めた**

項目	6 老人福祉センター
主な取組み	多世代交流事業のさらなる充実
取組みの概要	各施設で、多種多様な内容に取り組むことができました。また、統一したメニュー(囲碁ボール体験教室)に取り組むことができました。
取組みの成果	事業企画内容の幅が広がりました。参加者の満足度が向上しました。
今後の課題	事業の企画の幅を広げ、参加者の満足度を向上にむけた取り組みが必要と認識しています。
担当係名	老人福祉センター

**自己評価 4 想定より取組めた**

項目	6 老人福祉センター
主な取組み	マイクロバスの安定的な運行及び送迎ワゴン車のコース変更による乗車率の向上
取組みの概要	名越やすらぎセンターのマイクロバス運行及び腰越なごやかセンター、今泉さわやかセンター、玉縄すこやかセンターのワゴン車運行について、定期運行に取り組みました。さらに、今泉さわやかセンター(4月)、腰越なごやかセンター(12月)で運行コース変更に取り組みました。
取組みの成果	腰越なごやかセンターは、新規申込者が39名(うち12月のコース変更後25名)増加しました。今泉さわやかセンターは、新規申込者が80名(うち4月のコース変更後80名)増加しました。玉縄すこやかセンターは、新規申込者が21名増加しました。
今後の課題	①送迎車運転者の安定的な確保。 ②運行時に定員を上回る乗車希望や増加する希望者への対応。
担当係名	老人福祉センター

**自己評価 4 想定より取組めた**

項目	6 老人福祉センター
主な取組み	各施設を拠点としたさらなる地域福祉の推進
取組みの概要	各施設でイベント時は、地区社会福祉協議会、近隣の自治町内会、民生委員児童委員、社会福祉施設などと連携・協働して取り組みました。さらに、利用者の生活サポートなどについて、地域包括支援センターと連携して取り組むことにより地域福祉を推進しました。 また、福祉避難所に関する取り組みを充実させ、災害時の地域拠点として地域福祉に寄与すべく取り組みができました。
取組みの成果	イベントを通じて、地域の拠点として各種団体や他職種との顔の見える関係づくりが進みました。大規模災害時に地域の配慮が必要な方々を受け入れるために、市が行う福祉避難所の設置運営訓練に参加・協力を行い、有事の際にも地域福祉の拠点となるべく準備を進めることができました。
今後の課題	大規模災害時の職員安否確認と各施設への参集。
担当係名	老人福祉センター



## Ⅱ 事業区分別の主な取組み

### 大事業 1 法人運営事業

### 中事業 1 法人運営事業

小 事 業	法人運営のための会議等の開催
主な取組み	理事会・評議員会の開催及び改選の円滑な実施
数値(到達)目標	理事会は、年 5 回、評議員会は、年 3 回開催を基本とし、必要に応じて臨時で開催する。 また、年 1 回以上理事懇談会を開催する。
取組みの概要	<p>&lt;理事会&gt; ※主な議案</p> <p><u>第1回 5月16日(火)</u></p> <p>議案 1 令和4年度事業報告、収支決算について 2 社会福祉充実計画について 3 令和5年度補正予算について 4 理事、監事選任候補者の提案について 5 定時評議員会の開催について</p> <p>報告 1 会長職務執行状況報告について</p> <p>その他1 鎌倉市本庁舎移転時の社会福祉協議会の設置場所について 2 かまくらささえあい福祉プランについて 3 鎌倉福祉まつりにについて 4 創立 70 周年記念誌の発行について</p> <p><u>第2回 6月16日(金)</u></p> <p>議案 1 会長、副会長、常務理事の選定について 2 評議員の推薦について 3 事務局職員の給与規程の一部改正について</p> <p><u>第3回 9月22日(金)</u></p> <p>議案 1 一般会員の加入について</p> <p>報告 1 鎌倉福祉まつり開催結果について 2 かまくらささえあい福祉プランについて 3 赤い羽根共同募金進捗状況について 4 地域福祉推進感謝の集いについて 5 マスコットキャラクター「かまりん」の活用状況について 6 老人福祉センターフェスティバルについて 7 本庁舎整備に伴う社協設置場所のその後の状況について 8 みらいふる鎌倉事務局設置に係る市との協議について 9 SNS を活用した情報発信の拡充について 10 災害ボランティアセンター設置運営マニュアル、社協 BCP の策定状況について 11 福祉振興基金管理運営委員会報告について 12 職員の退職・採用について</p> <p><u>第4回 11月28日(火)</u></p> <p>議案 1 定時評議員会の開催について</p> <p>報告 1 かまくらささえあい福祉プランについて 2 老人福祉センターフェスティバルの結果報告について 3 職員の退職、採用について 4 会長職務執行状況報告について</p> <p><u>第5回 3月11日(月)</u></p> <p>議案 1 令和5年度補正予算について 2 給与規程の一部改正について 3 かまくらささえあい福祉プランについて 4 令和6年度事業計画、収支予算について</p>



	<p>5 定款第 37 条第 3 項に基づく決議について</p> <p>6 有価証券の保有限度及び損失限度について</p> <p>7 定時評議員会の開催について</p> <p>報告 1 災害ボランティアセンターについて</p> <p>2 事業継続計画書(BCP)について</p> <p>3 事業継続計画書(BCP)について</p> <p>4 能登半島地震に伴う被災地等支援について</p> <p>5 鎌倉市定期指導監査の結果報告について</p> <p>&lt;評議員会&gt; ※主な議案</p> <p><u>第1回 6月2日(金)</u></p> <p>議案 1 令和4年度事業報告、収支決算について</p> <p>2 社会福祉充実計画について</p> <p>3 令和5年度補正予算</p> <p>4 理事、監事の選任について</p> <p>報告 1 かまくらささえあい福祉プランについて</p> <p>2 鎌倉福祉まつりについて</p> <p>3 創立 70 周年記念誌について</p> <p><u>第2回 12月18日(月)</u></p> <p>報告 1 かまくらささえあい福祉プランについて</p> <p>2 老人福祉センターフェスティバルの結果報告について</p> <p>3 職員の退職、採用について</p> <p><u>第3回 3月22日(金)</u></p> <p>議案 1 令和5年度補正予算について</p> <p>2 令和6年度事業計画、収支予算について</p> <p>3 定款第 37 条第 3 項に基づく決議について</p> <p>報告 1 かまくらささえあい福祉プランについて</p> <p>2 災害ボランティアセンターについて</p> <p>3 事業継続計画書(BCP)について</p> <p>4 能登半島地震に伴う被災地等支援について</p> <p>&lt;評議員選任・解任委員会&gt;</p> <p><u>第1回 7月5日(水)</u></p> <p>評議員2名の選任</p> <p>&lt;理事懇談会&gt;</p> <p><u>第1回 2月16日(金)</u></p> <p>議題 1 令和5年度事業、決算の状況について</p> <p>2 令和6年度事業、予算について</p>
今後の課題	理事会、評議員会において活発な意見交換が行われるよう、議事の運営にも配慮していくことが必要と考えます。理事、評議員の改選時に市の定期指導監査で指摘された改選手続きに際しての所定の手続きを適正に実施します。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	総務企画係

小 事 業	効率的な組織運営
主な取組み	職員研修の開催
数値(到達)目標	年3回以上開催する。
取組みの概要	<安全運転講習> ○ 6月28日(水) 受講者17名      ○ 7月13日(木) 受講者16名 <会計システム研修会>      <予算入力研修会> ○ 7月27日(木) 受講者8名      ○ 11月8日(水) 受講者10名 <市との合同研修会> ○ 令和6年1月31日(水) 受講者31名
今後の課題	プランⅣ「相談支援と情報提供の基盤づくり」を図るため、職員の資質向上を図ることが必要であり、年間研修計画の策定及び研修内容の充実を目指します。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	総務企画係

小 事 業	効率的な組織運営
主な取組み	(新規)将来を見据えた予算執行管理、会計処理システムの検討
数値(到達)目標	7月から新たな会計処理方法を導入する
取組みの概要	○ 7月20日(木) 経理事務処理見直しの説明会実施 ○ 7月27日(木) 会計システム研修会の実施 ○ 8月1日(火) 地域福祉係、生活支援係、あんしん生活係で会計システム運用開始 ○ 11月1日(水) 経理担当者会議にて予算入力等方向性の提示 ○ 11月8日(水) 予算入力研修会の実施 ○ 11月9日(木)～予算入力運用開始 (地域福祉係、Libero かまくら、生活支援係、あんしん生活係、スリー・プラス鎌倉)
今後の課題	令和7年度に老人福祉センター、地域包括支援センターにおいて運用開始を予定しており、その準備等を進める必要があります。また、総務企画課が担う経理事務についての委託等についての可否を含めた検討を行うことが必要とされています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	総務企画係

小 事 業	会員の増強
主な取組み	一般会員及び賛助会員の募集・紹介
数値(到達)目標	年10名(団体)の新規加入
取組みの概要	新規一般会員は1団体、新規賛助会員は2団体に留まりました。
今後の課題	新規一般会員、賛助会員獲得に向けた組織的な取組みが行われておらず、総務企画係のみの取組みではなく、事務局全体での取組みに拡大していく必要があります。本会における会員獲得の意義を再確認し、具体的な方策の検討が必要です。
自己評価	2 想定より取組めなかった
担当係名	総務企画係

小 事 業	共同募金・寄付金募集の取組み
主な取組み	共同募金の周知
数値(到達)目標	街頭募金などを通じて周知する。また街頭募金の前年度実績額を上回る
取組みの概要	<p>&lt;神奈川県共同募金会鎌倉市支会理事会&gt;  ○ 第1回 4月10日 第2回 8月4日</p> <p>&lt;街頭募金&gt;  ○ 10月1日～28日 参加団体15 205名 1月6日 参加団体3 15名  ※街頭募金については、実施日を増加し、学校等の協力も得て、昨年度を大きく上回る募金額となりました。</p> <p>&lt;募金額&gt;  ○ 戸別募金 10,526,420円 ○ 街頭募金 568,065円 ○ 法人募金 512,934円  ○ 職域募金 132,235円 ○ 校内募金 177,420円 ○ イベント募金 27,928円  ○ その他募金 345,095円  ○ 年末戸別募金 8,017,419円 ○ 年末その他募金 149,164円</p>
今後の課題	街頭募金、DM募金を含めた共同募金運動全般について、これまでの取組みを検証し、より効率的、効果的な方法を検証していくことが必要と認識しています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	総務企画係

小 事 業	共同募金・寄付金募集の取組み
主な取組み	福祉活動振興基金の周知
数値(到達)目標	チラシの積極的な配布
取組みの概要	チラシ内容を更新しました。積極的な配布にまでは至りませんでした。基金への寄付実績は、9件 1,038,441円で、前年度を上回る寄付を受けました。
今後の課題	市社協の活動を多くの方々に知ってもらうことで、活動を応援していただくことが可能となると考えます。活動内容を様々な媒体を通じて周知していくことが喫緊の課題と捉えています。
自己評価	2 想定より取組めなかった
担当係名	総務企画係

## 大 事 業 1 法人運営事業      中 事 業 2 基金運営事業

小 事 業	基金の適正な管理運用
主な取組み	福祉活動振興基金管理委員会の開催
数値(到達)目標	年1回以上開催
取組みの概要	<p>第1回委員会 9月20日(水)  1 現在の金融情勢と有価証券について(講師 大和証券)  2 今後の運用について</p> <p>第2回委員会 2月15日(木)  1 福祉活動振興基金の状況について  2 資産運用指針の見直しについて  3 今後の予定について  第2回委員会で運用指針改正について議論を行い、指針改正を行いました。</p>
今後の課題	基金を運用するための指針改正を踏まえ、今後適正な運用を図っていくことが必要です。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	総務企画係

## 大事業 2 企画広報事業 中事業 1 広報啓発事業

プラン IV 情報発信と情報共有の促進 ①社協の情報収集・発信力や内部の情報共有を強化します

小 事 業	広報活動の充実と福祉情報の収集、発信
主な取組み	かまくら社協だよりの発行
数値(到達)目標	年4回発行
取組みの概要	5月号、8月号、11月号、2月号をそれぞれ発行しました。また、広告掲載について、令和5年度当初に新規広告主を5社獲得することができ、安定した広告収入を得ることができました。
今後の課題	プランIV「相談支援と情報提供の基盤づくり」を図るため、発行月の検討、紙面の刷新などが必要と認識しており、編集会議の場で議論を深めていくことが必要と認識しています。令和6年度の広告主が3社撤退、2社獲得で、新たな広告主の獲得への取り組みが必要となります。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	総務企画係

プラン IV 情報発信と情報共有の促進 ①社協の情報収集・発信力や内部の情報共有を強化します

小 事 業	広報活動の充実と福祉情報の収集、発信
主な取組み	なるほど社協 第3版の作成
数値(到達)目標	6月末発行
取組みの概要	4月に第3版を1,000部作成し、社協実施事業の説明や周知に活用しました。
今後の課題	地域福祉や社協事業の周知を継続していくことが必要と認識しています。福祉にまだ関心がない方々を引寄せられる情報発信が課題と捉えています。
自己評価	5 想定よりかなり取組めた (1,000部作成したが、すでに残部少数のため需要があり活用できている)
担当係名	地域福祉係

プラン IV 情報発信と情報共有の促進 ①社協の情報収集・発信力や内部の情報共有を強化します

小 事 業	広報活動の充実と福祉情報の収集、発信
主な取組み	ホームページ、Facebook の積極的な運用
数値(到達)目標	新着情報の月1回以上の更新
取組みの概要	ホームページ、Facebook でタイムリーな情報提供に努めました。ホームページについては、4月以降62回の新着情報を発信しました。Facebook については、4月以降140回情報を発信しました。また、8月下旬にInstagram を開設し、89回情報を発信しました。なお、Facebook のフォロワー543名、Instagram のフォロワー91名という状況です。
今後の課題	プランIV「相談支援と情報提供の基盤づくり」を図るため、令和7年度に向けたホームページの刷新、Facebook・Instagram の継続性を持たせて運用の検討を令和6年度に行っていくことが喫緊の課題として捉えています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	総務企画係

プラン IV 情報発信と情報共有の促進 ①社協の情報収集・発信力や内部の情報共有を強化します

小 事 業	広報活動の充実と福祉情報の収集、発信
主な取組み	イメージキャラクターの運用
数値(到達)目標	地域のイベントへ参加(年5回以上)
取組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5月21日(日) 大船まつり</li> <li>○ 7月25日(火)・28日(金) 夏休み子ども福祉体験</li> <li>○ 9月3日(日) 鎌倉福祉まつり</li> <li>○ 10月1日(日) 赤い羽根街頭募金</li> <li>○ 10月22日(日) 大船福祉まつり</li> <li>○ 10月29日(日) 腰越なごやかセンターフェス</li> <li>○ 11月11日(土) 玉縄まつり</li> <li>○ 11月26日(日) ハピネスフェスティバル</li> <li>○ 12月14日(木) 子育てサロン</li> <li>○ 12月17日(日) 西鎌倉地区社会福祉協議会クリスマス会</li> </ul>
今後の課題	プランIV「相談支援と情報提供の基盤づくり」を図るため、かまリン着ぐるみ、グッズ等の運用に関するルール等を令和5年度に策定し、その着実な実施を行っていく必要があります。
自己評価	5 想定よりかなり取組めた
担当係名	総務企画係

大 事 業 2 企画広報事業 中 事 業 2 福祉功労者表彰事業

小 事 業	広報啓発イベント・行事開催の検討
主な取組み	地域福祉推進感謝の集いの開催
数値(到達)目標	11月に開催
取組みの概要	<p>11月14日(火) 13:30~14:30 13名 7団体を表彰しました。(敬称略)</p> <p>【一般表彰】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 民生委員児童委員として10年以上 村上史</li> <li>○ 地区社協役員として10年以上 仲島孝 村上史</li> <li>○ 福祉団体役員として10年以上 中田功</li> <li>○ ボランティア活動に10年以上 シェアハート鎌倉 こずえサロン</li> <li>○ 福祉活動振興基金への多額の寄付 鎌倉婦人子供会館 生命保険協会神奈川県協会 かまくら食育クラブ 鎌倉学園 生徒会 神奈川県タクシー協会</li> </ul> <p>【特別表彰】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボランティア活動に20年以上 矢部博 鞍掛勝雄 松川建男 永井壤太郎 野田富士子 大江英美子 平井潤子 荒木富美子 相良祐子</li> </ul>
今後の課題	従来の第2部アトラクションがなくなったことにより、式典時間が短くなりましたが、それに代わるおもてなし、感謝の意を表する取組について、更なる検討を行うことが必要と考えます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	総務企画係

## 大事業 2 企画広報事業      中事業 3 福祉まつり事業

小 事 業	広報啓発イベント・行事開催の検討
主な取組み	鎌倉福祉まつりの開催
数値(到達)目標	9月3日(日)に開催。来場者数 2,389 人(スタッフ 570 人含)、元年度比較 637 人減。
取組みの概要	令和元年から4年ぶりとなる開催(規模は令和元年度と同等)。屋外では舞台発表や模擬店、屋内では市民寄付物品バザーや福祉団体による作品販売を主に実施。令和元年度との対比では、模擬店純益 455,458 円(元年度 616,217 円)と下がりましたが、福祉団体による作品販売の総売上金は同等額でした。 準備期間から当日に至るまで猛暑が続いたため、運営委員会の承認のもと、令和6年度以降の福祉まつりの開催日程を「11 月第4土曜日」に変更しました。
今後の課題	市福祉センターでは会場が手狭であるため、他の会場を検討する必要があると認識しています。 福祉団体による作品販売の出店者を増やすことが必要と考えています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

## 大事業 3 ボランティアセンター活動事業      中事業 1 ボランティアセンター運営事業

プラン VI 人材育成・確保      ③活動参加者の発掘・養成を強化します

小 事 業	ボランティアの相談・連絡調整及び活動機会の情報収集・提供
主な取組み	ボランティア活動に関する相談受付
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	相談件数 164 件(相談元:ボランティア依頼 48 件、ボランティア活動者 10 件、ボランティア希望者 35 件、寄付希望者7件、高齢者1件、学校 10 件、その他 14 件、保険 39 件) 保険申込 324 件。
今後の課題	ボランティア活動に関する相談窓口が本会にあることを周知できていないため、様々な場面で周知していくことが必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

プラン VI 人材育成・確保      ③活動参加者の発掘・養成を強化します

小 事 業	ボランティアの相談・連絡調整及び活動機会の情報収集・提供
主な取組み	施設部会でのボランティアニーズの調査
数値(到達)目標	コロナの状況を見て実施
取組みの概要	施設部会から各施設とも新型コロナウイルス感染症対応により調査実施が難しいと言われたことから、令和5年度も実施を見送りました。
今後の課題	令和6年度以降、ボランティアニーズ以外にも、各施設がどのようなボランティア活動に協力できるかについてもあわせて調査する必要を認識しています。(例えば、場の提供等。)
自己評価	1 取組めなかった
担当係名	地域福祉係

プラン VI 人材育成・確保 ③活動参加者の発掘・養成を強化します

小 事 業	ボランティアの相談・連絡調整及び活動機会の情報収集・提供
主な取組み	事業所その他団体等でのボランティアニーズの調査
数値(到達)目標	5月に実施
取組みの概要	5月に地区ボランティアセンター(腰越地区、大船地区、玉縄地区)、鎌倉市障害者地域作業所連絡会、鎌倉市精神障害者地域生活支援団体連合会、鎌倉市身体障害者福祉協会、神奈川県立鎌倉支援学校、生活介護事業所、放課後等デイサービス事業所、日中一時支援事業所、有料老人ホーム、子ども(地域)食堂等へボランティアニーズ調査を実施しました。結果、13事業所等からボランティア受入可との回答を得ました。
今後の課題	ボランティア受入可と回答を得た事業所と本会登録の個人ボランティアとのコーディネートが数件にとどまったため、ボランティア活動者の増強のため、工夫が必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

プラン IV 情報発信と情報共有の促進 ①社協の情報収集・発信力や内部の情報共有を強化します

小 事 業	ボランティアの相談・連絡調整及び活動機会の情報収集・提供
主な取組み	ホームページ等でのボランティアニーズの情報発信
数値(到達)目標	ニーズ調査後に実施
取組みの概要	事業所その他団体等に対して実施したボランティアニーズ調査の結果を表としてまとめ、本会ホームページ内に掲載しました。
今後の課題	ボランティア活動を希望した際、情報にすぐアクセスできるよう工夫が必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

小 事 業	ボランティアの相談・連絡調整及び活動機会の情報収集・提供
主な取組み	相談内容の蓄積
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	相談件数 164 件(相談元:ボランティア依頼 48 件、ボランティア活動者 10 件、ボランティア希望者 35 件、寄付希望者7件、高齢者1件、学校 10 件、その他 14 件、保険 39 件) 保険申込 324 件。(再掲)
今後の課題	蓄積した相談内容の分析を行い、社内で共有できる仕組みが必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

小 事 業	ボランティア活動者への支援・助成及びボランティア育成・啓発
主な取組み	個人登録「はじめの一歩」及び団体登録
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	個人登録 20 名登録(内訳:令和4年度から継続 12 人、令和5年度新規登録8人) 団体登録 64 団体(令和5年度新規登録2団体)
今後の課題	本会にボランティアの個人登録及び団体登録の受付窓口があることが周知できていないと認識しており、様々な場面で周知していくことが必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係



小 事 業	ボランティア活動者への支援・助成及びボランティア育成・啓発
主な取組み	ボランティア活動保険の加入手続きと保険料助成
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	4月に本会登録団体 61 団体のうち 56 団体と腰越地区ボラセン、大船地区ボラセン、玉縄地区ボラセンの登録者合計 1,401 名に対しボランティア活動保険の加入手続き及び保険料合計 490,350 円を助成しました。その後随時受付け、合計 652,000 円を助成しました。
今後の課題	引続き、助成を必要としている団体へ確実に助成していきます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

小 事 業	ボランティア活動者への支援・助成及びボランティア育成・啓発
主な取組み	ボランティア団体への助成
数値(到達)目標	6月
取組みの概要	6月に 13 団体とボラ協へ総額 780,000 円助成しました。 (内訳:ボラ協 20 万円、朗読録音奉仕会5万円、男性ボラ・ヤローズ5万円、笹りんどう会1万円、キッズママ5万円、KOC5万円、ハイキングクリーン4万円、小綬鶏の会5万円、布絵本はこべ5万円、おもちゃ Drs.かまくら4万円、図書館とともだち5万円、玉縄ハーモニカ4万円、グループ芽5万円、teamHINATA5万円)
今後の課題	引続き、助成を必要としている団体へ確実に助成していきます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

#### プラン IV 情報発信と情報共有の促進 ②関係団体の情報発信を支援します

小 事 業	ボランティア活動者への支援・助成及びボランティア育成・啓発
主な取組み	ホームページ等によるボランティア団体の紹介
数値(到達)目標	5月に実施
取組みの概要	令和5年度は未実施でした。
今後の課題	ボランティア活動に関心のある人が、情報にすぐアクセスできるよう工夫していくことが必要と認識しています。
自己評価	1 取組めなかった
担当係名	地域福祉係

#### プラン VI 人材育成・確保 ③活動参加者の発掘・養成を強化します

小 事 業	ボランティア活動者への支援・助成及びボランティア育成・啓発
主な取組み	ボランティア入門講座の開催
数値(到達)目標	R6年1月開催
取組みの概要	○ 1月27日にボランティア入門講座を開催しました。定員20名に対し18名の応募があり、当日は15名が受講しました。ボランティアにまつわる体験談を2名の講師より話していただき、その後かまくらボラセン登録団体より4団体が登壇し活動を紹介しました。また、受講生へボランティア体験・見学の希望を募り、8名が子ども食堂、福祉事業所、有料老人ホーム等11カ所を希望され、調整した結果、～3月にかけて実施できました。 ○ 3月30日にボランティアカフェを開催し、ボランティア体験・見学に行かれた方及びボランティア連絡協議会役員との交流を深め、今後のボランティア活動につなげることができました。
今後の課題	定員以下の応募だったため、周知方法を改善する必要があります。開催日時は、令和4年度は平日の昼間、令和5年度は土曜日の昼間に開催しました。令和6年度も異なる日時で開催し、そのことによる応募者の年代層等の変移も把握していきたいと考えています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

- プラン Ⅲ居場所や活動拠点の確保 ①既存の居場所・活動場所を整理し、また、新たな場の発掘に取り組みます  
②地域福祉活動関係者・団体の活動拠点の確保・整備に取り組みます

小 事 業	ボランティア活動者への支援・助成及びボランティア育成・啓発
主な取組み	活動場所の確保・調整
数値(到達)目標	ボランティア活動室年間利用の調整を12月に実施
取組みの概要	12月のボラ協委員会にて、各団体へ調整結果を報告しました。結果として、要望どおり調整できなかった団体については、1月に再調整し、ほぼ要望どおり調整できました。
今後の課題	-
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

- プラン Ⅳ情報発信と情報共有の促進 ②関係団体の情報発信を支援します

小 事 業	ボランティア活動者への支援・助成及びボランティア育成・啓発
主な取組み	地下道ギャラリーでの団体紹介
数値(到達)目標	年2回計40団体の紹介
取組みの概要	6月27日～7月3日及び8月15日～8月21日にそれぞれ20団体ずつ紹介しました。
今後の課題	今後も年度内2回団体の紹介ができるよう市福祉総務課と調整していきます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

- プラン Ⅳ情報発信と情報共有の促進 ②関係団体の情報発信を支援します

小 事 業	ボランティア活動者への支援・助成及びボランティア育成・啓発
主な取組み	鎌倉FMでの団体紹介
数値(到達)目標	毎月1回1団体の紹介
取組みの概要	毎月1回1団体の紹介で年間12団体を紹介しました。
今後の課題	今後も鎌倉エフエムと連携し、団体の活動内容を紹介していきます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

小 事 業	鎌倉市ボランティア連絡協議会との連携
主な取組み	ボランティア連絡協議会会員向け研修会開催
数値(到達)目標	年2～3回
取組みの概要	○ 6月15日にボラ協、本会共催でボラ協会員を対象に「ステップアップ認知症サポーター養成講座」を開催し、約30人の会員が参加しました。 ○ 1月13日にボラ協、かまくら防災士ネット、本会共催で市民対象に講演会「大規模災害と地域防災・減災・ボランティア」を開催し、関係者含め約140人が参加しました。
今後の課題	年度当初に会員に対して研修会の内容について希望を聴取し、有意義な研修会を実施していきます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

小 事 業	鎌倉市ボランティア連絡協議会との連携
主な取組み	鎌倉市ボランティア連絡協議会役員会・委員会へ出席
数値(到達)目標	役員会毎月1回、委員会隔月
取組みの概要	毎月第2木曜日に行われる役員会に、計12回出席しました。 偶数月第3木曜日に行われる委員会に、計6回出席しました。
今後の課題	今後も役員会・委員会へ出席し、ボラ協関係者と本会の顔の見える関係性を築き、連携・協力していく必要があると捉えています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

小 事 業	鎌倉市ボランティア連絡協議会との連携
主な取組み	ボランティアセンター運営委員会の開催
数値(到達)目標	7月、12月開催
取組みの概要	7月4日に第1回かまくらボランティアセンター運営委員会を開催しました。 12月5日に第2回かまくらボランティアセンター運営委員会を開催しました。
今後の課題	今後も年2回運営委員会を開催し、多角的な視点から本会ボランティアセンターの運営について意見をもらっていくことが必要と考えています。本会ボラセンの運営のみならず、本会が地域に求められるためにはどうしたらよいかについても意見をもらっていく必要があると認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

### 大 事 業 3 ボランティアセンター活動事業 中 事 業 2 福祉教育・研修事業 プラン VI 人材育成・確保 ②福祉教育を更に推進します

小 事 業	福祉教育の推進
主な取組み	福祉教育メニュー拡充
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	令和5年度は、十分に地域や企業のニーズを把握することができなかつたため、福祉教育メニューの拡充はできませんでした。
今後の課題	現在使用している福祉教育プログラムは、主に学校向けに作成したものであり、今後地域や企業へ福祉教育を推進していくためには、それぞれ対象に則したプログラムを作成していく必要があると認識しています。
自己評価	1 取組めなかつた
担当係名	地域福祉係

### プラン VI 人材育成・確保 ②福祉教育を更に推進します

小 事 業	福祉教育の推進
主な取組み	校長会・教頭会等へ福祉教育プログラムの紹介
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	5月8日小中学校校長会、5月16日小学校教頭会、5月25日中学校教頭会、6月23日学校教育研究会中学総合部会、7月5日同小学総合部会にて、福祉教育プログラムの紹介をしました。
今後の課題	今後も本会の福祉教育プログラムを紹介し、周知を図っていく必要があると捉えています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

プラン VI 人材育成・確保 ②福祉教育を更に推進します

小 事 業	福祉教育の推進
主な取組み	地域住民へ向けたプログラム実施
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	学校管理下外での実施は下記のとおりです。 ・放課後かまくらっ子・・・6件 ・地域住民対象(団地管理組合、地区民児協、市新入職員、ボランティアグループ等)・・・8件
今後の課題	現在使用している福祉教育プログラムは、主に学校向けに作成したものであり、今後地域や企業へ福祉教育を推進していくためには、それぞれ対象に則したプログラムを作成していく必要があると認識しています。(再掲)
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

大 事 業 3 ボランティアセンター活動事業 中 事 業 3 災害ボランティアセンター準備事業

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ②災害時の福祉避難体制(要配慮者の支援体制)を検討します

小 事 業	災害に備えた運営体制の準備
主な取組み	(仮)鎌倉災害ボランティアセンター運営委員会開催 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施
数値(到達)目標	運営委員会 2 回 設置運営訓練 1 回
取組みの概要	運営委員会自体の立ち上げができませんでした。 2月26日に鎌倉武道館にて設置運営訓練を実施しました。
今後の課題	令和6年度に災害ボランティアセンター企画会議(仮称)を立ち上げ、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルのブラッシュアップや災害に備えた運営体制の準備等について意見交換を行っていきます。
自己評価	2 想定より取組めなかった
担当係名	地域福祉係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ②災害時の福祉避難体制(要配慮者の支援体制)を検討します

小 事 業	災害に備えた運営体制の準備
主な取組み	災害ボラセン設置・運営マニュアルの作成
数値(到達)目標	8月までに完成
取組みの概要	8月までにマニュアルの完成を目指し、鎌倉市(福祉総務課・総合防災課)、鎌倉青年会議所、本会の三者で3回にわたり協議した結果、一定の合意形成が図れたため、9月に完成しました。(再掲)
今後の課題	令和6年度に災害ボランティアセンター企画会議(仮称)を立ち上げ、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルのブラッシュアップを行っていきます。(再掲)
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ②災害時の福祉避難体制(要配慮者の支援体制)を検討します

小 事 業	災害に備えた運営体制の準備
主な取組み	防災意識の啓発と共有
数値(到達)目標	
取組みの概要	令和5年度は市と鎌倉青年会議所と市社協による三者協議の開催にとどまりました。しかし、市民に対する防災意識の啓発と共有に取組むことの必要性については、三者協議の中で共通認識を持つことができました。
今後の課題	令和6年度に災害ボランティアセンター企画会議(仮称)を立ち上げ、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルのブラッシュアップや災害に備えた運営体制の準備等について意見交換を行っていきます。(再掲)
自己評価	2 想定より取組めなかった
担当係名	地域福祉係

大 事 業 4 地域福祉推進事業 中 事 業 1 地域福祉推進事業

プラン I なんでも相談体制の創設 ①なんでも相談窓口を設置します  
②相談の解決策を検討するなんでも相談バックアップ委員会(仮称)を設置します

小 事 業	多機関連携による相談対応
主な取組み	なんでも相談窓口の運営・拡充
数値(到達)目標	気軽に相談できる窓口を目指す
取組みの概要	4月10件、5月9件、6月12件、7月3件、8月11件、9月7件、10月8件、11月6件、12月6件、1月6件、2月3件、3月7件。 内容: 家族関係5件、高齢当事者関係12件、障害当事者関係11件、認知症当事者関係2件、情報関係6件、行政関係5件、食糧関係3件、コロナ関係2件、活動居場所関係15件、傾聴3件、その他24件。 相談内容の例は下記のとおりです。 ・高齢当事者からは、遺言の作成や入院時の身元保証人について ・情報関係については、市境に居住する高齢者の安否や能登半島地震の支援物資の寄付について ・活動居場所関係については、会場の予約が抽選なので安定した活動ができない、サロンを再開するので周知したい ・傾聴関係については、ダブルケア当事者で大変との訴え ・その他については、猫の一時預かりや学生の卒論の協力依頼、ゴミの出し方など
今後の課題	蓄積した相談内容の分析を行い、組織内で共有できる仕組みが必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係

プラン II 地域活動や組織運営の支援 ①専門職と地域住民が協働して地域アセスメントを全地区で実施して地域課題の把握を行います

小 事 業	地区社協活動等への支援
主な取組み	地区社協等の活動への参加・協働
数値(到達)目標	SC が中心となって地区社協等の活動に積極的に出向く
取組みの概要	地区社協役員会、自治町内会連合会会議、サロン、イベント、給食(配食)事業、防災訓練等に参加し、活動への協力を行ってきました。
今後の課題	土日開催の会議やイベントに対してどこまでの範囲で参加・協力ができるか検討が必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	生活支援係

プラン IV 情報発信と情報共有の促進 ②関係団体の情報発信を支援します

小 事 業	地区社協活動等への支援
主な取組み	地域福祉活動に関する情報収集と提供
数値(到達)目標	地区担当と生活支援コーディネーターの情報共有毎月1回
取組みの概要	所属係を問わず正規職員が3つのグループに分かれて担当地区を持つことで、生活支援コーディネーターと情報共有や課題解決に取組みながら、地域における関係団体等が行う活動の情報収集や情報発信を行いました。また、毎月1回、3グループの取組み状況の共有と各所属係からの情報発信と共有のため全体ミーティングを定例的に行いました。
今後の課題	生活支援コーディネーターを中心に、どのような地域福祉活動をどのように収集して蓄積していくのか枠組みの整理が必要と認識しています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	地域福祉係

小 事 業	物品の貸出し
主な取組み	車いすの貸出し
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	貸出用の車いす総数は18台。実績101台。令和4年度実績は109台。
今後の課題	貸出期間が長期化する場合は、介護保険制度における福祉用具貸与の説明や地区社協の貸出車いす等を提案することも適宜行う必要があると認識しています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	地域福祉係

小 事 業	物品の貸出し
主な取組み	催事用テントや綿菓子器等の貸出し
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	使用延実績:テント(大)7団体、テント(小)14団体、綿菓子機23団体、ポップコーン機15団体、テーブル8団体、パイプ椅子5団体、ガスコンロ1団体、セラピーマット7団体。貸出テントの出入れ時の負担を減らすため、テント運搬用の二輪台車を導入しました。
今後の課題	催事用備品の貸出しについて、さらなる事業周知を図っていくことが必要と捉えています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	地域福祉係

## 大事業 4 地域福祉推進事業

## 中事業 2 地域福祉活動計画事業

小 事 業	かまくらささえあい福祉プランの推進
主な取組み	第6期ささえあい福祉プランの策定、現行プランの進行管理のためのかまくらささえあい福祉プラン推進等委員会の開催
数値(到達)目標	かまくらささえあい福祉プラン推進等委員会を5・7・10・1・3月の5回開催
取組みの概要	7・10・12・1月・2月の計5回開催し、かまくらささえあい福祉プラン(第6次地域福祉活動計画)が完成しました。
今後の課題	計画に基づいた取組みの実行性をいかに高めるかが課題と捉えています。そのために、具体的な取組みの進め方に関する企画立案力の意識と体制の強化が必要と考えます。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	地域福祉係

## 大事業 4 地域福祉推進事業

## 中事業 3 部会・委員会活動事業

小 事 業	各種部会の開催
主な取組み	地区社協部会の開催
数値(到達)目標	会長会議3回(4月、6~7月鎌倉福祉まつりの確認、3月)
取組みの概要	会長会議①4月21日、②7月26日(正副会長が対象)、③10月31日、④12月4日、⑤3月18日開催。 令和5年度の部会では、助成金の交付に関する見直し(案)について協議を重ねてきました。運営費・給食事業費・拠点維持費・活動計画推進事業費の4つの助成項目のうち、運営費は世帯割合に応ずる交付とすることについて部会の承認を得ることができました(市社協一般会費も世帯割合を反映することとします)。
今後の課題	給食事業の見直しにかかる協議について継続していくことが必要と捉えています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	地域福祉係

小 事 業	各種部会の開催
主な取組み	団体部会の開催
数値(到達)目標	年2回開催
取組みの概要	4月21日、1月31日に開催。令和5年度は、毎回1団体ずつ順に活動内容や現状の課題を報告いただき、団体間の相互理解や共通課題を協議していくことで部会の承認が得られました。4月21日は、みらいふる鎌倉、1月31日は、鎌倉市身体障害者福祉協会に焦点を当てた意見交換を行いました。また、4月21日の部会では、3か月ごとの部会開催について承認が得られていましたが、7月及び10月は開催中止となりました。
今後の課題	当事者団体の広報を進めていくことが必要と認識しています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	地域福祉係



小 事 業	各種部会の開催
主な取組み	施設部会の開催
数値(到達)目標	種別長会議2回、防災作業部会
取組みの概要	4月27日に第1回種別会議(オンライン会議)、11月13日部会長と福祉総務課の顔合わせを実施しました。 ・役員の任期満了に伴う書面会議を高齢者種別は4月14日付で、障害種別は5月8日付で実施しました。(児童種別は事前調整により役員交代の手続きが行われました) ・11月13日二次避難所の課題整理について、「二次的受け入れガイドライン(案)」のアップデートを福祉総務課が行い、コロナ禍で中断していた施設部会内の防災作業部会を再開し、協議の場を持つことになりました。しかし、当時の防災作業部会メンバーの異動や退職等により協議を行う事ができませんでした。
今後の課題	児童・障害・高齢の全施設を対象とした部会開催が困難なため、3種別長による会議を開催し、各種別長を通じて各分野の施設宛に情報発信や協力要請を行っていくことが必要と捉えています。
自己評価	1 取組めなかった
担当係名	地域福祉係

#### 大 事 業 4 地域福祉推進事業      中 事 業 5 居住支援協議会に関する事業

小 事 業	多機関連携による相談対応
主な取組み	住宅確保要配慮者相談窓口の運営
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	高齢者、障害者、低所得者などの住居確保が難しい方への相談に応じ、鎌倉市居住支援協議会に加盟する協力不動産店や福祉関係団体と連携し居住支援を行いました。(契約期間令和5年8月1日～12月31日の相談件数8件)また、鎌倉市居住支援協議会が主催する研修会の企画・実施に協力しました。
今後の課題	相談については、単に住宅を探すだけではなく障害と高齢など複合化した課題が背景にあることも多く他機関との連携が今まで以上に必要となっています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

## 大事業 5 重層的支援体制整備事業 中事業 1 重層的支援体制整備事業

- プラン II 地域活動や組織運営の支援 ①専門職と地域住民が協働して地域アセスメントを全地区で実施して地域課題の把握を行います  
②地域課題を地域資源とつなぐ仕組みを作ったりニーズに応じた新たな支援活動の開発を支援します

小 事 業	重層的支援体制整備事業
主な取組み	相談支援機関等からの相談受付
数値(到達)目標	分野を超え複雑化・複合化した課題の解きほぐしを行うとともに、相談支援機関間のつなぎや調整機能の役割を担う多機関協働事業の充実を図る。併せて、制度の狭間のニーズに対応するため、本人のニーズと地域の社会資源との間を取り持つ参加支援事業に取り組む。
取組みの概要	新規相談 10 件、昨年度から引続き継続相談件数 38 件 相談支援機関等(当事者及び家族含む)からの相談・調整・対応など延べ 1,471 回。
今後の課題	昨年度新規相談 24 件に比べ、新規相談件数が少ないことから、相談支援機関等で抱えているケースが多いと考えられます。そのため引続き具体事例を交え個別ヒアリングを行うことが必要と考えます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係(Libero かまくら)

- プラン II 地域活動や組織運営の支援 ①専門職と地域住民が協働して地域アセスメントを全地区で実施して地域課題の把握を行います  
②地域課題を地域資源とつなぐ仕組みを作ったりニーズに応じた新たな支援活動の開発を支援します

小 事 業	重層的支援体制整備事業
主な取組み	「参加支援事業」の取組み
数値(到達)目標	分野を超え複雑化・複合化した課題の解きほぐしを行うとともに、相談支援機関間のつなぎや調整機能の役割を担う多機関協働事業の充実を図る。併せて、制度の狭間のニーズに対応するため、本人のニーズと地域の社会資源との間を取り持つ参加支援事業に取り組む。
取組みの概要	相談を受け付けた当事者(世帯含む)の抱える課題が複雑化・複合化しており、課題の解きほぐしに時間がかかるため(本人の気持ち日々変わることもあるため)、その先の参加支援(社会との繋がり)までには時間を要しますが、1件(令和4年1月より関わりのあるケース)が社会とのつながりを持ち始めました。
今後の課題	複雑な課題を抱えている当事者が動き出すタイミングを見逃さず、参加支援につなげるには細やかな(インフォーマル)社会資源など把握する必要があります。そのためにも生活支援コーディネーターと連携・協働することが必要と考えます。
自己評価	2 想定より取組めなかった
担当係名	地域福祉係(Libero かまくら)

- プラン II 地域活動や組織運営の支援
- ① 専門職と地域住民が協働して地域アセスメントを全地区で実施して地域課題の把握を行います
  - ② 地域課題を地域資源とつなぐ仕組みを作ったりニーズに応じた新たな支援活動の開発を支援します

小 事 業	重層的支援体制整備事業
主な取組み	「多機関協働事業」の取組み
数値(到達)目標	分野を超え複雑化・複合化した課題の解きほぐしを行うとともに、相談支援機関間のつなぎや調整機能の役割を担う多機関協働事業の充実を図る。併せて、制度の狭間のニーズに対応するため、本人のニーズと地域の社会資源との間を取り持つ参加支援事業に取り組む。
取組みの概要	複雑化・複合化したケースではあるが、当事者もしくは家族に拒否や困り感がないことなどにより、新規相談ケース 10 件のうち、多機関協働事業の申込み(同意)は1件のみでした。 多機関協働事業への申込み(同意)に至らなかったケースについては、分野別の支援会議等に参加し(57 回)多機関協働事業者として、全体を俯瞰した立場で課題の解きほぐし、調整(コーディネート)に努めました。
今後の課題	当事者もしくは家族に拒否が強く、申込み(同意)に至らないケースが多くあります。そのため、各分野における支援会議等で課題の整理、解きほぐしなどを行いつつ、当事者及び家族との信頼関係を築いていく方法など協議し、多機関協働事業の申込み(同意)につなげていくかが課題です。 複数の支援機関が関わっているため、的確な情報を収集し、支援の方向性(見立て)を示していくことに難しさを感じています。しっかりとアセスメントを行い、課題の軸を見定め、連携ネットワークにおける支援者の核を定めていくことが令和6年度の課題です。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係(Libero かまくら)

小 事 業	重層的支援体制整備事業
主な取組み	支援関係機関等との連携強化
数値(到達)目標	分野を超え複雑化・複合化した課題の解きほぐしを行うとともに、相談支援機関間のつなぎや調整機能の役割を担う多機関協働事業の充実を図る。併せて、制度の狭間のニーズに対応するため、本人のニーズと地域の社会資源との間を取り持つ参加支援事業に取り組む。
取組みの概要	相談支援機関及び教育関係機関等に対し個別ヒアリングを行い、支援者が抱える課題等に対し、多機関協働事業者はどのような役割を持ち多機関連携等を進めていくか、少しずつではありますが理解を求めることが出来ました。(相談支援機関 16 カ所) 併せて日常業務において相談ケースを通し相談支援機関との連携強化を図りました。
今後の課題	多機関協働事業の役割について全ての相談支援事業者等に理解してもらえたとは言い難く、個別ヒアリングを行う際、Libero に寄せられた具体事例を交えて説明するなど工夫が必要と考えます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係(Libero かまくら)

小 事 業	重層的支援体制整備事業
主な取組み	支援関係機関等への事業周知
数値(到達)目標	分野を超えた複雑化・複合化した課題の解きほぐしを行うとともに、相談支援機関間のつなぎや調整機能の役割を担う多機関協働事業の充実を図る。併せて、制度の狭間のニーズに対応するため、本人のニーズと地域の社会資源との間を取り持つ参加支援事業に取り組む。
取組みの概要	相談支援機関 16カ所に個別ヒアリングを行う際、事業パンフレットを活用し周知を図りました。 併せて日常業務において相談ケースを通し相談支援機関等に事業周知を図りました。
今後の課題	多機関協働事業の役割について全ての相談支援事業者等に理解してもらえたとは言いがたく、個別ヒアリングを行う際、より Libero に寄せられたより具体事例を交えて説明するなど工夫が必要と考えます。(再掲)
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係(Libero かまくら)

小 事 業	重層的支援体制整備事業
主な取組み	研修会の開催
数値(到達)目標	年5回
取組みの概要	大研修として「精神障害を抱える方たちの支援(11月7日)」「重層的支援体制整備事業における地域づくり(11月21日)」を開催し、延べ84名の参加がありました。 ミニ研修(支援者カフェ)として「障害・高齢・生活困窮」について相談支援事業所の紹介や説明及び相談事例を交えてディスカッションを行うことで、相互に役割を理解し、分野を越えたよりよい連携体制を作ることを目的に障害分野(3月5日 参加者17名 講師:基幹相談支援センター)、高齢分野(3月12日 参加者13名 講師:地域包括支援センター聖テレジア)、生活困窮分野(3月19日 参加者15名 インクルジョンネットかながわ(インクル相談室鎌倉)開催しました。(再掲)
今後の課題	相談支援機関がどのような学びを求めているか、研修時のアンケートだけでなく個別ヒアリングの際、聞き取る必要があり、背景にあるニーズを分析し、研修に活かしていくことが課題と捉えています。(再掲)
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係(Libero かまくら)

## 大 事 業 6 生活支援体制整備事業 中 事 業 1 生活支援体制整備事業

### プラン IV 情報発信と情報共有の促進 ② 関係団体の情報発信を支援します

小 事 業	生活支援体制整備事業
主な取組み	ホームページ、Facebook、社協だよりの毎号記事発信、地区社協だよりへの投稿等
数値(到達)目標	随時(Facebookで地域イベント等の即時更新)
取組みの概要	社協だより毎号掲載、地区社協だよりへの投稿、SNS(Facebook・Instagram)の活用、腰越支所総合文化展での展示等で情報発信に取り組みました。
今後の課題	情報発信のタイミングと情報共有の方法等、市民が情報を受取りやすくするための方法を工夫するとともに、生活支援コーディネーターの業務をわかりやすく伝えるための情報発信を向上させていくことが必要と捉えています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	生活支援係

プラン IV 情報発信と情報共有の促進 ②関係団体の情報発信を支援します

小 事 業	生活支援体制整備事業
主な取組み	住民主体サービス補助制度や近所の団らん助成の制度周知・活用支援、外出支援プログラムの開催
数値(到達)目標	外出支援プログラム(1~2回)
取組みの概要	近所の団らん、支援金制度等民児協議、包括、地域住民にチラシを持参し説明しました。SCが同行し老人福祉センターの送迎車を利用した外出支援プログラムを10月15日(俣野別邸庭園 今泉車両利用)に開催しました。公共交通機関利用した行事のトライアルを3月1日に開催を予定しています。(お出かけ型サロン)
今後の課題	対象が高齢者だけではないため多世代を対象とした取組について工夫していく必要を認識しています。また、職員の資質向上のための研修の受講や住民からの要望に応えるための助成金等の情報を収集する取組みを進めていく必要があると考えています。
自己評価	4 想定よりやや取り組めた
担当係名	生活支援係

プラン III 居場所や活動拠点の確保 ①既存の居場所・活動場所を整理し、また、新たな場の発掘に取り組みます ②地域福祉活動関係者・団体の活動拠点の確保・整備に取り組みます

小 事 業	生活支援体制整備事業
主な取組み	高齢者の困りごとや必要な支援を把握し、解決の方法を考え、提案
数値(到達)目標	随時(相談時・課題と捉えた時)
取組みの概要	地域住民から相談のあったサロンの講師、支援金・助成金の情報提供、障害者に対する対応の相談、イベント開催の相談等に対して支援し、困りごとに応えました。
今後の課題	高齢者等地域住民の困りごとについてどのように支援していくか、的確な地域資源の提供をしていくため、地域資源・相談場所の情報を把握し、それらを整備していくことが必要と認識しています。
自己評価	3 取り組めた
担当係名	生活支援係

プラン II 地域活動や組織運営の支援 ①専門職と地域住民が協働して地域アセスメントを全地区で実施して地域課題の把握を行います ②地域課題を地域資源とつなぐ仕組みを作ったりニーズに応じた新たな支援活動の開発を支援します

小 事 業	生活支援体制整備事業
主な取組み	高齢者等の困り事や必要な支援を把握し、実行方法考察
数値(到達)目標	随時(相談時・課題と捉えた時)
取組みの概要	第一地区や深沢地区で開催した違う自治会同士をグルーピングした研修会、各協議体で講座(福祉防災、消費者被害、コロナ対策、ゲートキーパー研修、スマホ教室等)や懇談会(アセスメント発表)を実施しました。また、地域住民の希望から出た地域交流会を3月28日に開催予定としています。
今後の課題	地域住民から寄せられた自治会等地域の担い手不足を解消するための担い手作りのための発想・情報共有を進めていくことが必要と認識しています。また、それらのための研修講師の情報把握と整理を検討していくことが必要と捉えています。
自己評価	3 取り組めた
担当係名	生活支援係

プラン II 地域活動や組織運営の支援 ①専門職と地域住民が協働して地域アセスメントを全地区で実施して地域課題の把握を行います

小 事 業	生活支援体制整備事業
主な取組み	協議体設置運営に向けて生活支援コーディネーターや協議体の機能・役割を地域にわかりやすく伝えるための方法を検討する
数値(到達)目標	随時(未設置地区への協議体設置に向けた働きかけ)
取組みの概要	地域へ出向いた際(協議体、民児協議会、自治会、地区社協、サークル、サロン等)や、新たなつながりのできた方々に生活支援コーディネーターや協議体の役割・機能を説明してきました。また、新規資料作成は令和6年1月22日に明確になり、作成できていない。
今後の課題	協議体の機能、役割が令和6年1月22日に明確になったことで、地域への説明のための資料作成や説明の仕方の工夫などを進めることが必要と捉えています。そのため、鎌倉市との協力体制をより充実したものになるよう取り組んでいくことが必要と認識しています。
自己評価	2 やや取り組めなかった
担当係名	生活支援係

プラン III 居場所や活動拠点の確保 ①既存の居場所・活動場所を整理し、また、新たな場の発掘に取り組みます

小 事 業	生活支援体制整備事業
主な取組み	近所の団らん助成事業の実施場所の新規開拓により身近な地域で見守りの資源を増やす支援をする
数値(到達)目標	全地区で新規5か所
取組みの概要	新規5か所の目標に対して、7か所の新規開拓ができた。
今後の課題	近所の団らんに生活支援コーディネーターが勧めるにあたり、地域住民から出ている条件に対しての希望(自宅以外の場所や対象者の範囲、開催日数の変更等)など開催に向けた条件整備について検討を進めることが必要と捉えています。
自己評価	4 想定よりやや取り組めた
担当係名	生活支援係

大事業 7 日常生活自立支援事業 中事業 1 日常生活自立支援事業

小 事 業	日常生活自立支援事業
主な取組み	丁寧な聴取りによる相談受付対応
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	新規相談については、電話のみの対応だけでなく、必要に応じてアウトリーチ等により対応するとともに、相談内容によっては関係機関に繋げました。新規相談件数は22件となっています。
今後の課題	聴取りを行う中で、相談者の意向と支援機関の考えが異なる場合が散見されることから、支援機関へ事業の理解を促す必要があるものと認識しています。
自己評価	3 想定どおり取り組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン II 地域活動や組織運営の支援 ②地域課題を地域資源とつなぐ仕組みを作ったりニーズに応じた新たな支援活動の開発を支援します

小 事 業	日常生活自立支援事業
主な取組み	適正な支援提供のための局内カンファレンスの開催
数値(到達)目標	月1回開催及び臨時開催
取組みの概要	利用者等の支援内容の協議を行う局内カンファレンスを14回開催(相談5件、契約・計画変更29件、新規契約5件、契約終了2件)しました。令和5年度の利用者数は21名(高齢等5名、知的6名、精神8名、身体2名)で、うち10名は生活保護受給者です。
今後の課題	ケース処遇の適正化及び専門員個々の支援スキルアップを図るため、質の高い局内カンファレンスを実施していくことが課題と捉えています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

小 事 業	日常生活自立支援事業
主な取組み	生活支援員の専門性向上の研修
数値(到達)目標	生活支援員連絡会の開催(年2回)、県社協研修への参加
取組みの概要	該当する県社協の研修は開催されませんでした。生活支援員連絡会を2回開催し、各支援員の活動状況等を共有するとともに、支援上の課題について意見交換を行いました。
今後の課題	経験年数が長い支援員に対する専門的な研修を実施することが必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

小 事 業	日常生活自立支援事業
主な取組み	利用料の徴収
数値(到達)目標	支援時
取組みの概要	令和5年度より利用料の徴収を開始しましたが、令和4年度から利用者及び支援機関等に対して個別・具体的な説明を行い、円滑な実施につなげることができました。原則、生活保護世帯は免除、それ以外は1回1,250円(生活保護世帯の臨時支援は1,250円)で、令和5年度は、延べ197名(回)で246,250円の利用料収入となりました。
今後の課題	今後はなるべく臨時支援が生じないよう利用者と意思疎通が図れるよう制度の運用に努めます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン IV 情報発信と情報共有の促進 ②関係団体の情報発信を支援します

小 事 業	日常生活自立支援事業
主な取組み	支援関係機関等への制度の周知
数値(到達)目標	成年後見事業や各種連絡会でのパンフレットの配布、説明
取組みの概要	全民生委員児童委員の定例会、鎌倉成年後見連絡会、相談事業所連絡会で、日常生活自立支援事業の制度説明を行うとともに、市内金融機関(銀行・郵便局等)にパンフレットを送付し周知を図りました。
今後の課題	制度の周知が十分にされていないと認識しており、継続的な取組みが必要です。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係



## 大事業 8 成年後見センター事業

## 中事業 1 成年後見センター事業

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実

①判断能力に課題のある方々の地域生活支援を強化します

小 事 業	成年後見センター事業
主な取組み	円滑な制度利用に向けた制度の利用支援
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	令和5年度は、電話、来局等を含め、294件(月平均24.5件)の相談がありました。相談の主な内容は、後見制度の概要について、判断能力の低下によって、金融機関から預貯金を引き出せなくなって相談にくるケースなどです。 また、日常的な後見相談に活かすため、次の2つの調査を行いました。 ・証券会社を対象に、「成年後見制度の取次に関する状況調査」:9社のうち7社が回答 ・地域包括を対象に、「成年後見に関するアンケート」
今後の課題	成年後見を担っている機関、士業の方との連携をさらに深め、相談・助言で活かせる情報を市民に提供していくことが必要と捉えています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実

①判断能力に課題のある方々の地域生活支援を強化します

小 事 業	成年後見センター事業
主な取組み	弁護士や司法書士等による専門相談の定期実施
数値(到達)目標	専門相談 12回/年
取組みの概要	令和5年度は、22件の相談がありました。高齢関係が12件、障害関係が9件、その他が1件という内訳です。相談内容は不動産や家族問題等法律に絡むものがほとんどで、そうした法律上のトラブルを抱えて相談に来る方が多いのが現状です。 職員が同席しており、日常的な相談に引用できる情報も得ることができました。
今後の課題	法律に絡む複雑な案件が多く弁護士に相談することが多い状況であり、広く専門職に対応してもらえるようにしていくことが必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実

①判断能力に課題のある方々の地域生活支援を強化します

小 事 業	成年後見センター事業
主な取組み	市民・事業所向け講演会等による権利擁護の普及啓発
数値(到達)目標	各2回/年(計4回)
取組みの概要	<p>&lt;市民向け講演会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回 5年6月20日「障害のある子へ 想いを繋ぐ成年後見」 講師 金井直子氏(社会福祉士) 参加者 35名</li> <li>○第2回 5年12月8日「公証人に聞く任意後見のいろは」 講師 高島久尚氏(博物館前本町公証役場公証人) 参加者 30名</li> </ul> <p>&lt;事業者向け研修会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回 5年9月29日「いま、権利擁護を考える～後見制度で守る本人の暮らし～」 講師 小野田 潤氏(社会福祉士) 参加者 22名</li> <li>○第2回 6年2月16日「後見実務を知ってより良い支援へ」 講師 山田英男氏(弁護士)</li> </ul>

	<p>参加者 18名</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>○虹の子作業所からの要請により、同作業所の職員及び利用者家族を対象に事務局から後見制度の概要、後見センターに寄せられる主な相談事例を説明しました。 (令和5年10月26日:参加者9名)</p> <p>○ホームヘルプ連絡会からの要請により、同連絡会の会員を対象に事務局から後見制度の概要、後見センターに寄せられる主な相談事例を説明しました。 (令和6年3月23日:参加者17名)</p>
今後の課題	市民向けの講演会に関しては、これまで制度に関心のある一般市民の参加がほとんどでしたが、今後は自治会町内会や民生委員・児童委員等福祉関係者にも参加を促していくことが課題として捉えています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ①判断能力に課題のある方々の地域生活支援を強化します

小 事 業	成年後見センター事業
主な取組み	市民後見人の登録・活動支援
数値(到達)目標	市民後見人2名への活動支援
取組みの概要	<p>本会の法人後見利用者2名について本会と市民後見人との複数後見を行っています。主な活動支援は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を通して、後見関係の情報や資料の提供 ( 3回 )</li> <li>・ 定期報告書の書き方の支援 ( 1回 )</li> <li>・ 各種手続きについての助言 ( 随時 ) ・ 各種研修の案内 (3回)</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民後見人との意見交換会を行いました。具体的には市民後見人からの活動報告を受けて専門職後見人である弁護士や司法書士、本会と忌憚のない意見交換をしました。 (令和6年3月27日:参加者3名)</li> </ul>
今後の課題	市民後見人の養成や活用についての考え方や方針を市に示してもらい土業の関連団体に周知する必要があると考えています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ①判断能力に課題のある方々の地域生活支援を強化します

小 事 業	成年後見センター事業
主な取組み	(新規)親族後見人支援
数値(到達)目標	新受任者に家裁を通し、チラシ等により周知
取組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年6月に横浜家裁に「親族後見人」に向けたチラシ 200 枚を持参し、今後、新規に親族後見人に就任される方に配付してもらうこととしました。</li> <li>・令和5年8月の社協だよりから毎号、親族後見人支援の案内を掲載しました。</li> </ul> <親族後見人向け講座> 令和6年1月26日「後見人の仕事を知る！定期報告書き方講座」参加者:5名 講師 遠峰俊一郎氏(行政書士) <ul style="list-style-type: none"> <li>・親族後見人からの相談は、専門職への相談が1件、後見センター窓口への相談が2件という状況でした。</li> </ul>
今後の課題	親族後見人の所在等の情報は家裁から開示されておらず、広報が広く行き渡らないことから、引き続き、広く一般に呼びかけることしかできない状況です。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

大事業 9 法人後見事業 中事業 1 法人後見事業

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ①判断能力に課題のある方々の地域生活支援を強化します

小 事 業	法人後見事業
主な取組み	円滑な制度利用に向けた制度の利用支援
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	本会は、成年後見制度の担い手として、判断能力に課題のある方の財産管理及び身上保護を行い、生活を支えています。令和5年度は新たに2件を受任し、受任累計は17件になりました。うち3件は死亡により終了したため、令和6年3月末現在の受任件数は14件です。
今後の課題	法人後見事業の周知を行うとともに、長期的な支援ができる体制を整えることが課題として捉えています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ①判断能力に課題のある方々の地域生活支援を強化します

小 事 業	法人後見事業
主な取組み	職員の専門性向上の研修
数値(到達)目標	県社協研修へ参加(7回程度)連絡会等へ参加(5回程度)
取組みの概要	成年後見人等の業務を適正に行うため、県社協等が主催する成年後見制度に関する研修に参加(4回)しました。また、年2回県社協が実施する法人後見実施社協連絡会に出席し、社協で行う後見業務の課題等を共有し、課題解決のための糸口としています。
今後の課題	連絡会等を通して新たな取組みに繋げていくことが必要と捉えています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ①判断能力に課題のある方々の地域生活支援を強化します

小 事 業	法人後見事業
主な取組み	法人後見審査会の定期開催
数値(到達)目標	年4回の定期及び臨時開催
取組みの概要	候補者として依頼があったケースについて、弁護士、医師、司法書士、社会福祉士、福祉職、行政職からなる審査会に本会が受任することの適否を諮りました。令和5年度は、申込が2件であったことから、審査会は2回の開催でしたが、2件とも本会を後見人等候補者とするようになりました。
今後の課題	緊急度が高い案件に対し、スピード感を持って審査会を開催できる体制づくりを進めることが課題と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

大 事 業 10 生活困窮者自立支援事業 中 事 業 1 就労準備支援事業

プラン II 地域活動や組織運営の支援 ②地域課題を地域資源とつなぐ仕組みを作ったりニーズに応じた新たな支援活動の開発を支援します

小 事 業	就労準備支援事業
主な取組み	就労準備プログラムの作成
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	令和5年度の利用者数は10人です。新規は2ケースで、本人の希望や意欲を踏まえ、自立相談支援機関や福祉事務所と情報共有を行いながらプログラムの作成を行いました。最終件数は5件です。また、就労人数は市役所会計年度職員1名、非常勤の清掃員1名、コンビニアルバイト1名、中間就労(デジタル就労センターKAMAKURA)1名で、ハローワークでの就労活動者は1名です。
今後の課題	福祉事務所や関係機関と連携し、利用者の増加に努めていく必要があります。
自己評価	3 取り組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン II 地域活動や組織運営の支援 ②地域課題を地域資源とつなぐ仕組みを作ったりニーズに応じた新たな支援活動の開発を支援します

小 事 業	就労準備支援事業
主な取組み	就労準備支援プログラムへの協力企業や団体の拡充
数値(到達)目標	利用者の希望に応じた協力団体の開拓
取組みの概要	令和5年度は、新たにデジタル就労センターKAMAKURA1箇所の協力をいただくとともに、新たにコンビニエンスストア、和菓子屋から協力の意向が示されました。
今後の課題	就労体験場所については、場の提供だけではなく、利用者へのサポートや雇用に繋げる取組みを期待しています。
自己評価	3 取り組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン II 地域活動や組織運営の支援 ②地域課題を地域資源とつなぐ仕組みを作ったりニーズに応じた新たな支援活動の開発を支援します

小 事 業	就労準備支援事業
主な取組み	利用者への柔軟で多様な支援の取組み
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	本事業は、「日常生活自立」「社会自立」「就労自立」の3段階で進めることとしており、生活習慣の立て直し、他者との関係づくり、仕事へのイメージ育成など、就労に向けて利用者に無理のない支援に努めています。
今後の課題	柔軟な個別支援を行うためにも、関係機関や協力団体に本事業への理解を深めてもらう必要があります。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

大事業 11 援護事業 中事業 1 緊急援護事業資金貸付事業

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ③生活困窮者支援・身元保証人問題等に取り組みます

小 事 業	緊急援護金の貸付・支給
主な取組み	緊急援護金の貸付・支給
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	【緊急援護給付金】 件数 18 給付金額 11,220 円 【緊急援護貸付金】 件数 34 貸付金額 513,300 円
今後の課題	緊急援護金について主管課の生活福祉課と制度の在り方等について継続協議としているが、管理、運用について方向性を定める必要があります。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	総務企画係

大事業 11 援護事業 中事業 2 生活福祉資金貸付事業

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ③生活困窮者支援・身元保証人問題等に取り組みます

小 事 業	生活福祉資金の貸付・償還相談の実施
主な取組み	通常的生活福祉資金の貸付相談
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	申請件数 ・要保護不動産担保型生活資金金額変更等 4件 ・通常不動産担保型生活資金承継契約 1件 ・緊急小口資金 3件 ・福祉資金 1件 ・教育支援資金 1件
今後の課題	教育支援資金等の貸付業務(相談・申請)は同じ時期に相談・申請が集中するため、体制を検討する必要があると認識しています。また償還業務についても体制を含め検討していく必要があります。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ③生活困窮者支援・身元保証人問題等に取り組みます

小 事 業	生活福祉資金の貸付・償還相談の実施
主な取組み	コロナ特例貸付等の償還相談
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	コロナ特例猶予者フォローアップ支援が国、県社協より示され、8月以降実施しています。令和5年度の対象者は、20名(支援希望者16名、支援希望しない4名)で、面談は9回、償還等の問い合わせは63件ありました。
今後の課題	令和5年度より本格的に返済が始まりましたが、県社協との情報共有が重要と捉えています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	あんしん生活係

大 事 業 11 援護事業 中 事 業 3 年末たすけあい援護事業

小 事 業	年末たすけあい援護事業																														
主な取組み	年末たすけあい募金の配分																														
数値(到達)目標	施設等への配分 12月																														
取組みの概要	11月28日(火) 年末たすけあい募金等配分委員会 年末たすけあい募金配分																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>配分先</th> <th>団体数</th> <th>配分金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当事者団体</td> <td>12</td> <td>638,000</td> </tr> <tr> <td>地域活動支援センター</td> <td>9</td> <td>540,000</td> </tr> <tr> <td>就労移行支援施設及び就労継続支援施設</td> <td>13</td> <td>780,000</td> </tr> <tr> <td>生活介護施設</td> <td>2</td> <td>120,000</td> </tr> <tr> <td>放課後等デイサービス</td> <td>1</td> <td>60,000</td> </tr> <tr> <td>自立訓練施設</td> <td>1</td> <td>60,000</td> </tr> <tr> <td>ボランティア連絡協議会</td> <td>1</td> <td>60,000</td> </tr> <tr> <td>地区社会福祉協議会</td> <td>8</td> <td>480,000</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>47</td> <td>2,738,000</td> </tr> </tbody> </table>	配分先	団体数	配分金額(円)	当事者団体	12	638,000	地域活動支援センター	9	540,000	就労移行支援施設及び就労継続支援施設	13	780,000	生活介護施設	2	120,000	放課後等デイサービス	1	60,000	自立訓練施設	1	60,000	ボランティア連絡協議会	1	60,000	地区社会福祉協議会	8	480,000	合 計	47	2,738,000
	配分先	団体数	配分金額(円)																												
	当事者団体	12	638,000																												
	地域活動支援センター	9	540,000																												
	就労移行支援施設及び就労継続支援施設	13	780,000																												
	生活介護施設	2	120,000																												
	放課後等デイサービス	1	60,000																												
	自立訓練施設	1	60,000																												
	ボランティア連絡協議会	1	60,000																												
	地区社会福祉協議会	8	480,000																												
	合 計	47	2,738,000																												
	鎌倉福祉まつり配分																														
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>地区社会福祉協議会</td> <td>9</td> <td>151,000</td> </tr> <tr> <td>民生委員児童委員協議会</td> <td>10</td> <td>100,000</td> </tr> <tr> <td>ボランティア連絡協議会</td> <td>1</td> <td>200,000</td> </tr> <tr> <td>福祉活動振興基金</td> <td></td> <td>4,458</td> </tr> </tbody> </table>	地区社会福祉協議会	9	151,000	民生委員児童委員協議会	10	100,000	ボランティア連絡協議会	1	200,000	福祉活動振興基金		4,458																			
地区社会福祉協議会	9	151,000																													
民生委員児童委員協議会	10	100,000																													
ボランティア連絡協議会	1	200,000																													
福祉活動振興基金		4,458																													
※12月13日(水)～15日(金)に配分金を配布しました。																															
今後の課題	配分金の原資となる年末たすけあい募金を目標額に近づけていくための方策を検討していく必要があります。また、配分先の検討も行っていく必要があると認識しています。																														
自己評価	3 想定どおり取組めた																														
担当係名	総務企画係																														

## 大事業 11 援護事業 中事業 4 災害見舞金等給付

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ②災害時の福祉避難体制(要配慮者の支援体制)を検討します

小 事 業	火災等の小災害時における緊急一時的な避難者の受入れ
主な取組み	老人福祉センターにおける避難者の受入れ
数値(到達)目標	事案発生後速やかに
取組みの概要	全焼1件 半焼1件 死亡2件 70,000 円
今後の課題	なし
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	総務企画係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ②災害時の福祉避難体制(要配慮者の支援体制)を検討します

小 事 業	火災等の小災害時における緊急一時的な避難者の受入れ
主な取組み	宿泊施設等への避難者の受入れ調整
数値(到達)目標	事案発生後速やかに
取組みの概要	実績なし
今後の課題	なし
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	総務企画係

小 事 業	火災等の小災害時における緊急一時的な避難者の受入れ
主な取組み	災害見舞金の支給
数値(到達)目標	事案発生後速やかに
取組みの概要	3件 死亡・半焼=30,000 円 全焼=20,000 円 死亡=20,000 円
今後の課題	市生活福祉課と連携をとり、情報共有と迅速な対応に努めていきます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	総務企画係

プラン V 権利擁護と地域生活支援の充実 ③生活困窮者支援・身元保証人問題等に取り組めます

小 事 業	その他生活困窮者やコロナ禍を見据えた取組み
主な取組み	生活困窮者への食糧支援
数値(到達)目標	随時
取組みの概要	延べ 169 世帯(内訳:単身世帯 90 世帯、複数人世帯 79 世帯)を支援しました。
今後の課題	本会の食糧支援について、生活困窮者へ周知が不足していると認識しており、周知方法について検討していくことが必要と捉えています。
自己評価	2 想定より取組めなかった
担当係名	地域福祉係

## 大事業 12 助成事業 中事業 1 有償福祉活動グループ助成事業

小 事 業	有償福祉活動グループ助成事業
主な取組み	在宅福祉サービス活動団体への助成
数値(到達)目標	3団体
取組みの概要	鎌倉市ホームヘルプサービス連絡会及び同連絡会加盟の3団体に対し、活動費として400,000円を助成しました。 鎌倉市ホームヘルプサービス連絡会として、年2回の社協だより掲載、年1回の地下道ギャラリー、年1回の市民活動フェスティバル等にて連絡会の周知を実施するとともに、赤い羽根共同募金街頭募金活動にも参加協力しました。また、年3回の研修会を実施する見込みです。
今後の課題	会員数の減少が課題と捉えています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	地域福祉係

## 大事業 12 助成事業 中事業 2 福祉団体等助成事業

小 事 業	福祉団体等助成事業
主な取組み	福祉当事者団体への助成
数値(到達)目標	11団体
取組みの概要	団体部会 11 団体に対し総額 435,000 円の活動支援のための助成金交付を行いました。
今後の課題	なし
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	地域福祉係

## 大事業 12 助成事業 中事業 3 地区社協助成事業

小 事 業	地区社協助成事業
主な取組み	地区社協への助成
数値(到達)目標	助成方法の見直しに向けた検討を行う
取組みの概要	7月26日地区社協部会、10月31日及び12月4日の会長会議では、助成方法の見直しに向けた検討を行いました。運営費・給食事業費・拠点維持費・活動計画推進事業費の4つの助成項目のうち、運営費は世帯割合に応ずる交付とすることについて部会の承認を得ました(市社協一般会費も世帯割合を反映する)。給食事業については協議を継続することとなりました。
今後の課題	給食事業についての継続協議を行っていきます。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	地域福祉係



大 事 業 13 地域包括支援センター事業

中 事 業 1 地域包括支援センター事業

小 事 業	地域包括支援センター事業
主な取組み	総合相談・支援業務
数値(到達)目標	事例検討会(年6回) ケアマネサロン(年2回) ケア会議(年4回) 個別ケア会議(年1回)
取組みの概要	相談件数は1月約 125 件で、経過記録を残し、行政とも内容を共有しています。また、適切な支援に向け関係機関との連携により、事例検討会(年5回) ケアマネサロン(年1回) ケア会議(年4回) 個別ケア会議(年2回)を開催しました。
今後の課題	より適切な相談対応を維持継続するために上記の目標を継続していく必要があると認識しています。
自己評価	3 取り組めた
担当係名	地域包括支援センター

小 事 業	地域包括支援センター事業
主な取組み	認知症予防への取組み
数値(到達)目標	認知症カフェ(外出支援1~2回)
取組みの概要	他団体の開催している認知症カフェの視察等を行い情報収集に努めました。また、名越やらぎセンターのマイクロバスを活用して外出支援の取組みを2回(5月、11月)実施しました。
今後の課題	認知症カフェの開催や協力のほか、認知症を受け入れる地域づくりを行っていくことが必要と捉えています。
自己評価	3 取り組めた
担当係名	地域包括支援センター

小 事 業	地域包括支援センター事業
主な取組み	介護予防マネジメント
数値(到達)目標	月約 180~200 件
取組みの概要	利用者の自立に向けた目標を達成し重度化を防ぐよう定期的なモニタリングやアセスメントを行い多職種連携のもと適切な介護予防ケアマネジメント(2,142 件)を行いました。
今後の課題	適切な介護保険サービスの利用支援等を継続的に行っていくための人材確保が重要と捉えています。
自己評価	3 取り組めた
担当係名	地域包括支援センター

小 事 業	地域包括支援センター事業
主な取組み	虐待・消費者被害等への対応
数値(到達)目標	注意喚起、リーフレット作成配付(通年)
取組みの概要	消費生活センターと連携した注意喚起、リーフレット作成配付(通年)、研修への参加等に取り組んできました。
今後の課題	上記同様の取組みについて継続していくひつようがあると認識しています。。
自己評価	3 取り組めた
担当係名	地域包括支援センター

小 事 業	地域包括支援センター事業
主な取組み	介護予防・介護者支援の取組み
数値(到達)目標	わくわく算数(通年)、予防教室(1回)、介護予防(1回)、ティールーム(1回)
取組みの概要	わくわく算数(11回)、予防教室(1回)、介護予防(1回)、ティールーム(3回)
今後の課題	ACP、後見制度、終活に係る内容の教室を開催していくことが必要と認識しています。外出イベントの企画と実施していくことが必要と認識しています。
自己評価	3 取り組めた
担当係名	地域包括支援センター

## 大 事 業 14 老人福祉センター運営事業

- 中 事 業 1 名越やすらぎセンター運営事業 2 腰越なごやかセンター運営事業  
 3 教養センター運営事業 4 今泉さわやかセンター運営事業  
 5 玉縄すこやかセンター運営事業

小 事 業	1 名越やすらぎセンター運営事業 2 腰越なごやかセンター運営事業 3 教養センター運営事業 4 今泉さわやかセンター運営事業 5 玉縄すこやかセンター運営事業
主な取組み	建物、機械設備の保守点検及び小破修繕の実施
数値(到達)目標	通年実施(年末年始除く)
取組みの概要	①建物及び付帯設備の保守点検については、センター職員又は設備担当職員(委託)によって、日々の目視点検及び専門業者による定期点検を実施しました。 ②小破修繕については、小規模な破損や故障について、予算の範囲内ですみやかに対応することができました。
今後の課題	腰越なごやかセンターを除いた4施設は、建物及び付帯設備とも老朽化が進み大規模な修繕の必要性が高まっており、市との協議が必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	老人福祉センター

小 事 業	1 名越やすらぎセンター運営事業 2 腰越なごやかセンター運営事業 3 教養センター運営事業 4 今泉さわやかセンター運営事業 5 玉縄すこやかセンター運営事業
主な取組み	サークル活動への支援、サークル作品展及び発表会の実施
数値(到達)目標	作品展は館内通年と年1程度のイベント(作品展・発表会)開催
取組みの概要	各施設とも年間を通じてサークル活動への支援を行ってきました。作品展や発表会については、新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことによって、一定の配慮を行いながら実施することができました。
今後の課題	施設利用者の高齢化にともなうサークル活動の維持・継続についてどのように支援していくかが課題として捉えています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	老人福祉センター

小 事 業	1 名越やすらぎセンター運営事業 2 腰越なごやかセンター運営事業 3 教養センター運営事業 4 今泉さわやかセンター運営事業 5 玉縄すこやかセンター運営事業
主な取組み	①生活福祉相談、②健康相談、③福祉法律相談の実施
数値(到達)目標	①通年 ②月4回 ③年1回
取組みの概要	① 生活福祉相談、②健康相談については目標どおりに実施することができました。 ③福祉法律相談については、腰越なごやかセンターで2回、教養センターで1回実施しました。
今後の課題	生活福祉相談を受ける相談員(センター職員)の資質向上への取り組みが必要と認識しています。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	老人福祉センター

小 事 業	1 名越やすらぎセンター運営事業 2 腰越なごやかセンター運営事業 3 教養センター運営事業 4 今泉さわやかセンター運営事業 5 玉縄すこやかセンター運営事業
主な取組み	マイクロバス、ワゴン車による送迎サービスの実施
数値(到達)目標	通年実施(日・祝・年末年始除く)
取組みの概要	名越やすらぎセンターのマイクロバス運行及び腰越なごやかセンター、今泉さわやかセンター、玉縄すこやかセンターのワゴン車運行について、大きな事故もなく定期運行に取り組むことができました。また、今泉さわやかセンターのワゴン車運行時刻の見直しを行い、ワゴン車利用者が大幅に増員しました。
今後の課題	送迎車運転者の安定的な確保をしていくことが課題として捉えています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	老人福祉センター

小 事 業	1 名越やすらぎセンター運営事業 2 腰越なごやかセンター運営事業 3 教養センター運営事業 4 今泉さわやかセンター運営事業 5 玉縄すこやかセンター運営事業
主な取組み	一般教養講座、専門講座、年間講座、健康づくり講座、生活講座の実施。フェスティバル等事業の実施
数値(到達)目標	名越:18回 腰越:31回 教養:359回 今泉:31回 玉縄:30回 合計469回 フェスティバル各施設年1回
取組みの概要	①名越:20回 腰越:83回 教養:280回 今泉:37回 玉縄:39回 合計459回 ②フェスティバル等事業については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、各施設とも10月に一定の配慮を行いながら実施することができました。
今後の課題	新たな講座の取り組み。
自己評価	3 想定どおり取組めた
担当係名	老人福祉センター

小 事 業	1 名越やすらぎセンター運営事業 2 腰越なごやかセンター運営事業 3 教養センター運営事業 4 今泉さわやかセンター運営事業 5 玉縄すこやかセンター運営事業
主な取組み	施設利用者と地域の子どもや大人と交流できる事業の実施
数値(到達)目標	各施設年12回 統一事業年1回
取組みの概要	① 各施設とも計画どおりに取り組むことができました。 ②統一メニューとして「囲碁ボール」を実施しました。
今後の課題	さらなる事業の企画の幅を広げ、参加者の満足度を向上にむけた取り組みが必要と認識しています。
自己評価	4 想定より取組めた
担当係名	老人福祉センター

小 事 業	1 名越やすらぎセンター運営事業 2 腰越なごやかセンター運営事業 3 教養センター運営事業 4 今泉さわやかセンター運営事業 5 玉縄すこやかセンター運営事業
主な取組み	協定にもとづく小災害時の避難所運営及び大規模災害時の福祉避難所運営への協力
数値(到達)目標	事案発生後速やかに
取組みの概要	① 小災害時の避難所の開設はありませんでした。 ② 大規模災害時の福祉避難所開設はありませんでした。 ③ 有事に備え、福祉避難所運営マニュアルの作成に協力しました。 ④ 有事に備え、玉縄すこやかセンターと腰越なごやかセンターで、福祉避難所設置運営訓練に積極的小に参加・協力を行いました。 ⑤ 有事に備え、防災・減災に関する研修を行い、職員の資質向上を図りました。 ⑥ 有事の際に電話等のインフラが使用不可となることを想定して、各施設にあるMCA無線取扱いの研修を実施しました。
今後の課題	大規模災害時の職員安否確認と各施設への参集が課題として捉えています。
自己評価	5 想定よりかなり取組めた
担当係名	老人福祉センター